

アクションリサーチを通じた校内研究の推進 ー探究を充実させる要素の発見と要素を生かした授業実践の展開ー

学籍番号	239102
氏名	井阪 統行
主指導教員	佐々木 靖
副指導教員	森田 英嗣

1. 問題の所在と研究の目的

現代はテクノロジーの進化によってあらゆるものを取り巻く環境が複雑さを増し、将来の予測が困難な状況にあることから VUCA 時代と呼ばれている。予測困難な時代においては、児童の探究的な学びが求められている。

実習校である A 小学校では令和 5 年度から校内研究テーマを「探究活動を通して、自ら学びに向かう児童を育む」として、校内研究を推進しながら学校教育目標の一つである「自ら考える子どもの育成」の実現に努めている。

しかし、校内研究を進めるにあたって探究のイメージが持てていない教員がいる、教員間で探究のイメージにギャップがあるといった問題点が見出された。そこで、本研究の目的を「A 小学校教員が探究のイメージを持てるようにすること」と「校内で探究のイメージを擦り合わせながら、探究活動を推進していくこと」とした。先行研究調査より、この課題を解決していくために同じ授業事例を見ながら教員間で討議する研究授業・授業討議会が有効ではないかという仮説を立てた。本研究は、この仮説に沿って進めることとした。

2. 実践 I

令和 5 年度は計画に沿って全 2 回の研究授業・授業討議会を実施した。研究授業の前には自主研修会を開催し、先行調査よりまとめた「探究」のポイントについて実践事例を含めながら確認をした。また、教員の主体的な参加を目的として討議会はラウンドスタディ形式で行うこととした。

討議会の振り返りを分析すると、研究授業及び討議会を通して教員によっては個別に探究を充実させるために大切な要素について考察していたことが分かった。

3. 実践 II

令和 5 年度の研究授業・授業討議会が終わった後に、12 名の教員に各自が考える探究を充実させるために大切だと考える要素についてインタビューを実施した。インタビュー結果から M-GTA 分析によって 21 個の概念を生成できた。

この概念をもとに校内学力向上部会で話し合い、2つのストーリーラインを作成した。これらの共通点を探りながら、4つのカテゴリーに整理した。21個の概念を4つのカテゴリー別にまとめて「A小学校として大切にしたい探究21」（以下、「探究21」と記す）を作成し、さらにストーリーラインから「めざす3つの探究の姿」を設定した。今後は、「探究21」と「めざす3つの探究の姿」を生かして授業研究を進めることとした。

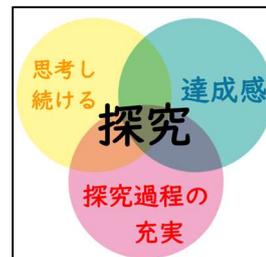


図. めざす3つの探究の姿

4. 実践Ⅲ

令和6年度は計画に沿って全3回の研究授業・授業討議会を実施した。研究授業事前説明会では、授業者より探究を充実させていくために「探究21」のどの要素を意識的に取り入れて授業づくり・単元づくりを行ってきたかを説明してもらい全体で共有することとした。

参観者は「めざす3つの探究の姿」を活用しながら、児童に授業の中で「思考し続けている」姿と「達成感を感じている」姿が見られていたかを見取っていくこととした。それらの姿は具体的にどんな言動だったかを記録する。そして、「探究21」の要素と合わせて、言動が見られた要因を考察しながら授業討議会で討議していった。

5. まとめ

5.1 成果と課題

アンケート調査及びインタビュー調査より、本研究の成果と課題を整理した。

成果として、大きく4点があげられる。①「探究のイメージが持てていない」という課題に対して、それぞれの教員が探究に関して具体的なイメージを持てるようになってきた、②A小学校教員に児童自らが取り組む授業ができているという意識が高まってきた、③A小学校教員は探究の過程である「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」やそれらの過程が繰り返すことを意識しながらの授業づくりや単元計画づくりができるようになってきた、④探究を充実させる要素を発見し、その要素を生かした授業実践を行うことは、校内の教員が探究を取り入れた授業づくりを進めていくのに有効であった、である。

課題としては、大きく3点があげられる。①本研究の課題である「A校教員が探究のイメージを持てるようにすること」と「校内で探究のイメージを擦り合わせながら探究活動を推進していくこと」についてまだ十分な解決には至っていない、②A小学校教員がさらに幅広く探究を取り入れた授業が実施できると感じられるようにしていく必要がある、③カリキュラムマネジメントを進めて6年間で適切に探究を取り入れた授業を行っていく必要がある、である。

5.2 今後の展望

本研究では一定の成果が見られた一方で、いくつかの課題も見出した。これらの課題の解決に向けては、今後も校内研究を進めていくことがまず何より重要であると考えられる。本研究内で作成した「探究21」は、A小学校教員の探究的な授業研究を具現化したものであると言える。この「探究21」をベースにしながら、今後も校内研究を推進していく。